

合薬に変更するか、中等量の吸入ステロイドに変更した方がよいのかについて結論は出ていない。本邦でも開業医のレベルで、この件について医師主導の自主臨床研究が行われている。海外の文献では、Bateman et al⁹⁾はsalmeterol/fluticasone (SFC) 50/250配合薬 1回1吸入 1日2回のステップダウンには、fluticasone250単独の1回1吸入 1日2回よりもSFC 50/100配合薬 1回1吸入 1日2回の方がより良いコントロールで、気道炎症改善効果は同等であると報告している。Pauwels et al⁷⁾は低用量budesonide/formoterol配合薬よりも、中用量budesonide単独の治療の方が喘息症状悪化を抑制したと報告している。Mcivor et al⁷⁾は吸入配合薬治療中に吸入ステロイドのみ減量した場合には、気道炎症が増悪して喘息発作が起こることを報告しており、中用量吸入配

合薬から低用量吸入配合薬へステップダウンする場合には特に気道炎症が残存する可能性があり注意が必要である。

文 献

- 1) 日本アレルギー学会. アレルギー疾患診断・治療ガイドライン2010
- 2) 日本アレルギー学会. 喘息予防・管理ガイドライン2012
- 3) Tanaka H, et al. Allergol Int 61;385-392, 2012
- 4) 田中裕士. Medical Practice 29:599-601, 2012
- 5) Bateman ED, et al. JACI 117; 563-70, 2006
- 6) Pauwels RA, et al. NEJM 337: 1405-11, 1997
- 7) Mcivor RA, et al. AJRCCM 158: 924-30, 1998

北海道医師会 女性医師等支援相談窓口を ご存知ですか？

北海道医師会では、お忙しい医師のために
育児支援事業や仕事と家庭の両立を支援するために、
現役の先輩医師による相談窓口を開設しています。
詳しくは、以下の専用ホームページをご覧ください。

育児支援

病気や緊急時にご利用いただくもので、病院からの急な呼出し等で子どもを預けたい時、手術や急な残業でお迎えに間に合わない時、また、保育園・学童保育などで発病したがお迎えに行けない時などに当会が保護者に代わって送迎の手配を行うものです。

お悩みコーナー

ご相談内容に応じて、先輩医師が適切なアドバイスを行うことで問題解決の糸口につながる事ができればと考え、「お悩みコーナー」を設置しております。女性医師等が結婚・出産・育児等を機に離職することなくキャリアを継続していただくため、日頃考えていることや悩んでいることなどをお電話やメールなどでご相談いただくコーナーです。お気軽にご相談ください。

復職研修支援

復職を目指し研修を希望する女性医師等に対して、より身近な地域の医療機関において研修が受けられるよう、当会が医療機関へ委託し、研修を実施します。

北海道医師会 女性医師等支援相談窓口

●詳しくはこちらをご覧ください 「女性医師等支援相談窓口」専用ホームページ <http://www.hokkaido.med.or.jp/josei-dr-shien/>

●ご相談はこちらへ ☎ 0120-112-500 FAX 011-231-7272 E-mail josei-dr-shien@m.douji.jp

北海道医師会 〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目 <http://www.hokkaido.med.or.jp/>